



## 渡邊洋治設計「斜めの家」再生プロジェクト（2013 - 2023）概要

活動履歴概要	P2
「斜めの家」平面図	P3
「斜めの家」配置図	P4
「斜めの家」写真	P5-7
「斜めの家」所見	P8-9
渡邊洋治生誕 100 周年記念講演会・原図展ポスター（2023/6/10 企画実施）	P11-12
Facebook ページ「渡邊洋治設計『斜めの家』再生プロジェクト」より抜粋	P12-31
中野一敏（2023 年）「斜めの家」を理解せずに上越の建築文化を語るなかれ 『直江の津』（52 号）上越なおえつ信金倶楽部	P32-40

## 活動の概要

新潟県上越出身の建築家、渡邊洋治の最後の実作である「斜めの家」(1976 竣工)をオリジナルのまま保存し、多くの方に体験していただける場として活用をしている。また、「斜めの家」の設計意図を探り、渡邊洋治の建築と故郷との関わりについて、「斜めの家」と地域の建築文化について考察を深めている。

## 活動の構成員

中野 一敏 (ナカノデザイン一級建築士事務所) / 〒949-3255 新潟県上越市柿崎区上下浜 931-5/2013 年、建築専門家として参加、現在に至る。

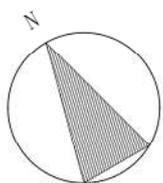
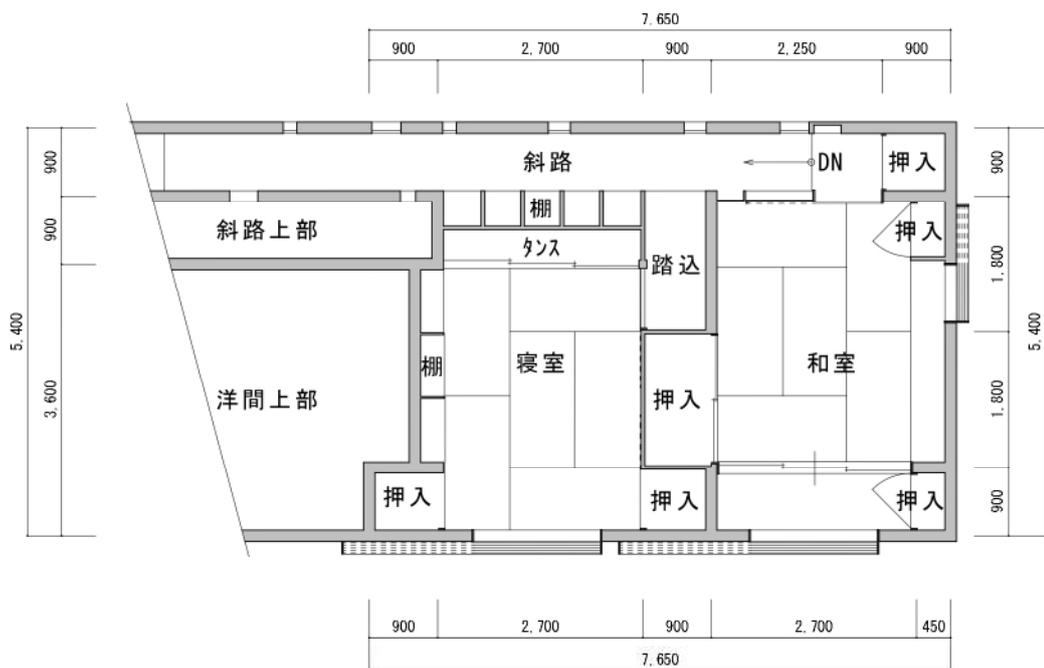
橋本 桂子 / 〒943-0807 新潟県上越市春日山町/2013 年、事業立ち上げ運営、2020 年逝去。

安岡 雅子 / 〒185-0003 東京都国分寺市/斜めの家所有者 (渡邊洋治の姪) 活動サポート

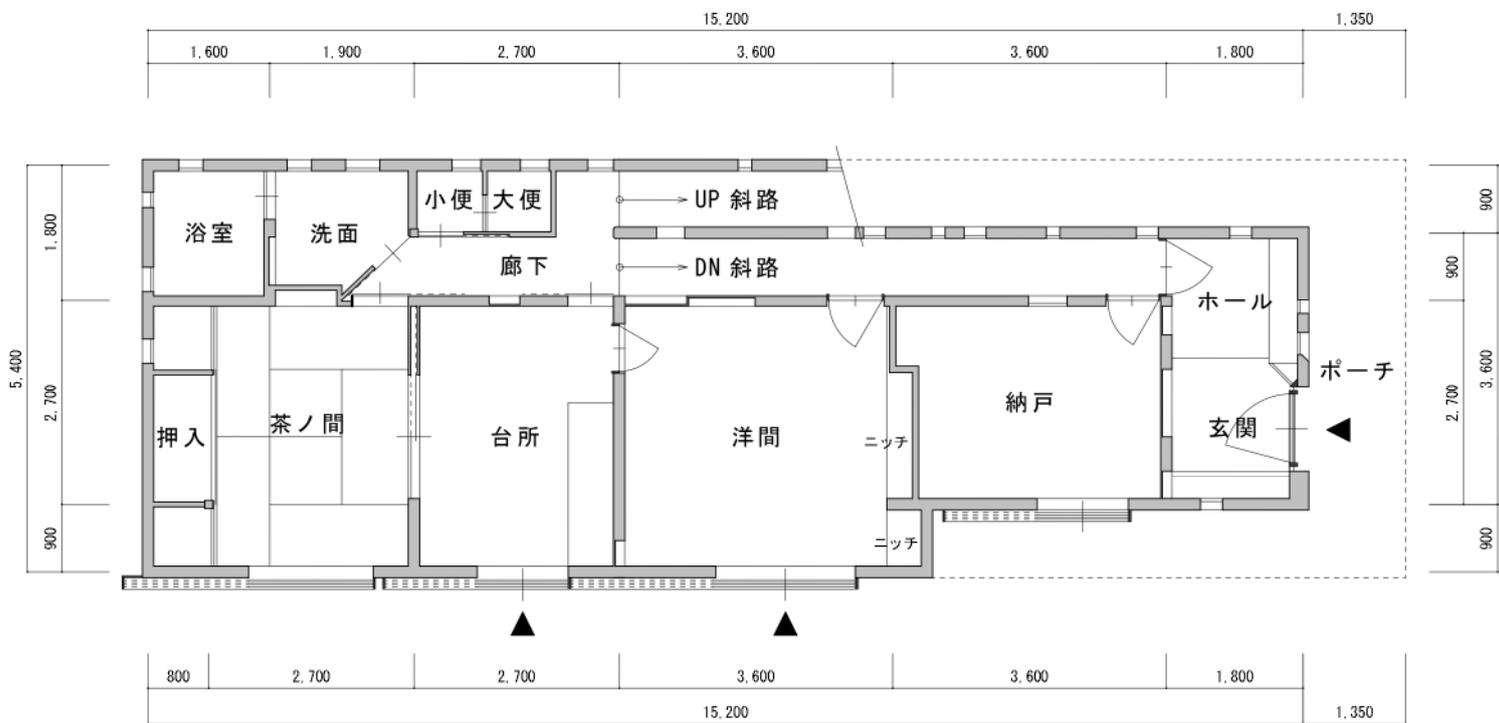
## 活動の説明

新潟県上越出身の建築家、渡邊洋治 (1923-1983) の最後の実作である「斜めの家」(1976 竣工)が、上越市に残っていて空き家となっていた。渡邊洋治の作品として多くの方に見ていただきたいという所有者 (安岡さん) の意向を受けて、大学で美術を学び主婦をされていた橋本さんが、2013 年に渡邊洋治設計「斜めの家」再生プロジェクトを立ち上げ、私も上越の建築設計者という立場で参加することになった。ボランティア活動として、見学希望者を案内するとともに、設計当時を知る方にお話をうかがい、「斜めの家」の設計意図について調査を行った。その模様は、Facebook ページで公開してきた。設計意図を探る中で、渡邊洋治が故郷の風土と融合する現代建築を作ろうとしていたと考えるようになった。「軍艦マンション」や「龍の砦」に代表される渡邊洋治の建築に新たな一面を加えてくれる作品と言って良いのではないかと。多くの方に興味を持って検証していただけるように、調査した「斜めの家」の設計意図の詳細は、2023 年に上越市の一般雑誌「直江の津」52 号に寄稿する機会をいただき普及に努めている。さらに、「斜めの家」を今後も多くの方に見ていただけるよう保存活用する仕組みを整えている。

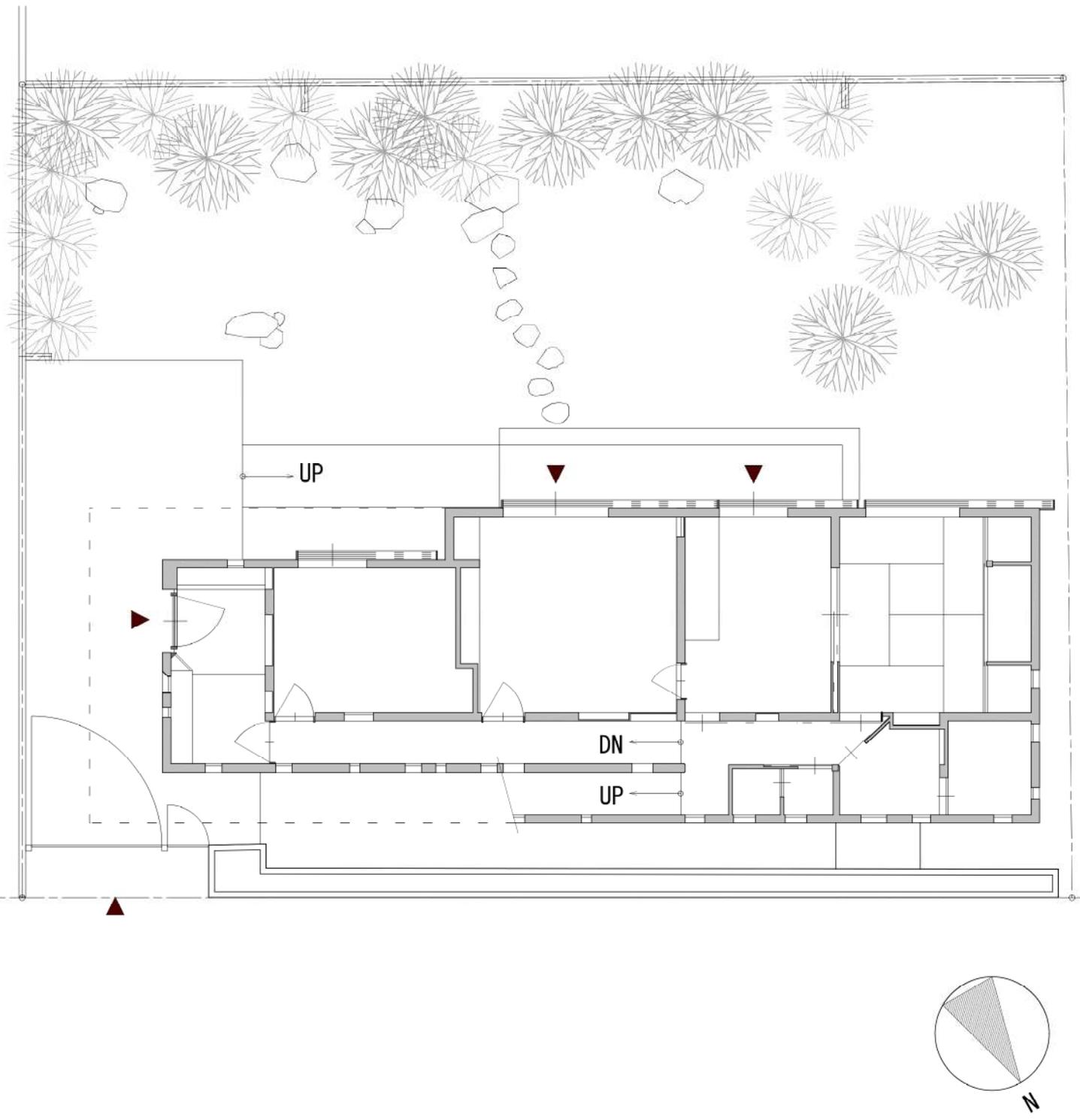
2023 年は、渡邊洋治の生誕 100 年であり、渡邊洋治設計「斜めの家」再生プロジェクトも 10 年目となる節目の年だった。2020 年に、橋本さんが逝去されてからプロジェクトの持続可能性について意識するようになっていた。近年、有名建築家が設計した住宅を、泊って学べる民泊として活用する事例が出てきており、オリジナルのまま、保存に必要な費用を捻出する有力な手段となっているようであった。「斜めの家」も保存には維持管理の費用がかかり、ボランティア活動では、公開の範囲も限られている。そこで、節目の年を活かし、クラウドファンディングを活用し、泊って学べる民泊として立ち上げるための修繕費用と宿泊支援者を募った。100 周年記念講演会を皮切りに、100 年目の誕生日にクラウドファンディングをスタートさせて、2 年で、97 組 (最大で 388 人) の宿泊支援者と、¥2371000 の支援額を集めた。2024 年 4 月からの宿泊スタートに向けて準備を進めた。2024 年は無事に宿泊事業を実施できた。



2階 平面図 1/100



1階 平面図 1/100





東側外観



北東側外観



北側外観



南側外観 / 雨戸を閉めた状態



南側外観 / ガラス框戸を閉めた状態



西側外観 / 建具を全開にした状態



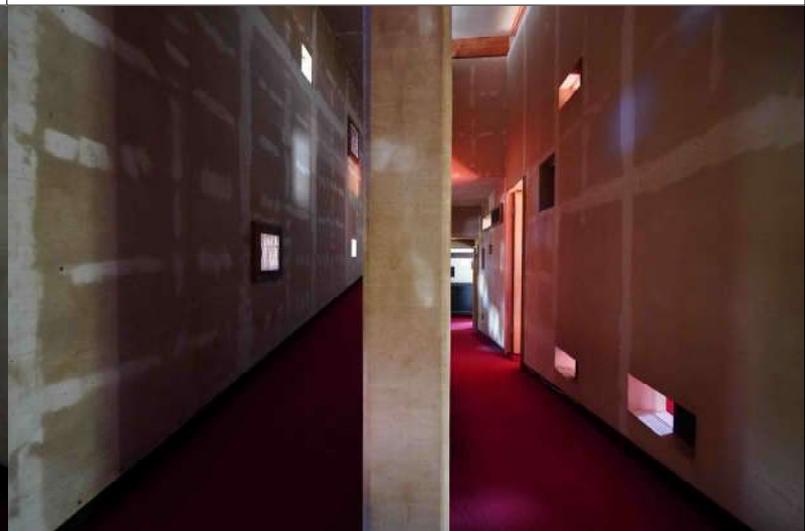
玄関



斜路 / 上り始め部分



斜路 / 折り返し部分曇天時



斜路 / 折り返し部分快晴時



洋間 / 建具全開時



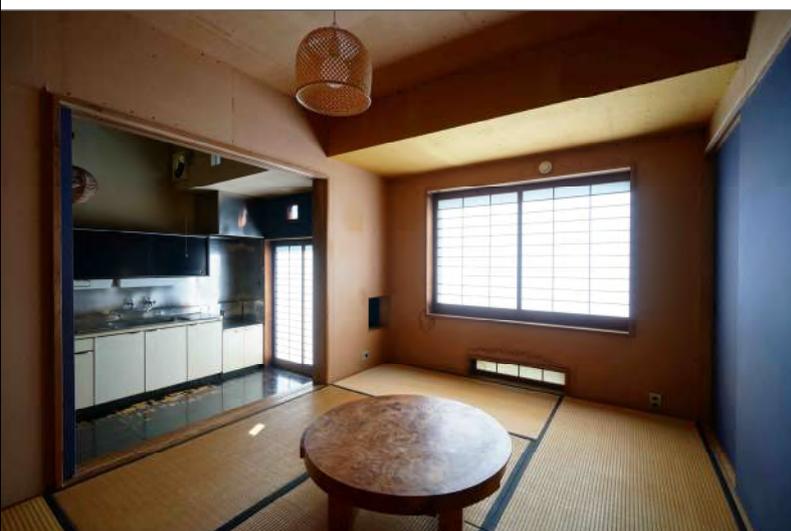
洋間 / 障子を閉めた状態



茶ノ間 / 建具全開状態



茶ノ間 / 簾戸を閉めた状態



茶ノ間 / 障子を閉めた状態



寝室 / 建具全開状態



寝室 / 障子を閉めた状態



和室

## 田中邸 [ 斜めの家/銅の家 ] の建物について

### 1. 建造物の概要 (由緒・沿革など)

田中邸は、建築主 (田中シデ) の兄である渡邊洋治 (1923/6/14 - 1983/11/2) によって設計された。設計図の日付は、1975年2月18日で1976年に竣工した。施工者は岩島工務店で、現場代理人は岩島房次氏であった。

渡邊洋治は、新潟県上越市 (旧直江津市) にて、大工の家系に生まれた。代表作に、糸魚川善導寺 (1961)、龍の砦 (1968)、最高裁判所庁舎コンペ優秀賞 (1969)、第3スカイビル (1970) 等がある。ニューヨーク近代美術館の展覧会への出品 (1979) や、海外の大学での講演など、その活躍は海外でも知られている。なお、田中邸 (1976) は、実現した最後の建築作品である。

田中邸は、設計図書に記載された名前である。「近代建築 渡邊洋治特集」(1982/1) では、田中邸 (銅の家) と記載されている。渡邊洋治没後に出版された、渡邊洋治建築作品集 (1985) では、斜めの家 (田中邸) と記載されている。

### 2. 建設年代・改修年代等

田中邸の設計図は、1975年2月18日に完成し1976年に竣工している。

### 3. 建造物の特徴

#### 構造・構法について

鉄筋コンクリート造布基礎を使用した、木造在来軸組工法2階建てである。105角柱を使用し、105角柱を3つ割りにした材を筋交いとし、特徴的なスロープ張り出し部もこの材で構成している。屋根を支える梁は、270角材を4つ割りにした材を2本使った挟み梁工法で、1350mm軒を出している。

#### 平面構成について

住宅の平面は東西に長い長形状で、敷地の北側に配置され、敷地の南側に庭が設けられている。主要室は、平面の南側に配置され庭側に大きな開口部が設けられている。平面の北側には、廊下、斜路と便所、洗面、浴室が配置されている。2階建てであるが、階段が無く斜路で2階に行けるようになっている。南側に配置される室は、1階の玄関、納戸、洋室、台所、茶ノ間、2階の寝室、和室である。

#### 断面構成について

床高の異なる主要室間を斜路がつなぐ構成となっている。東側の玄関から始まる斜路を西側に移動するにつれて、納戸、洋室・台所、茶ノ間と地面からの床高が順に高くなる。斜路は途中で東側に折り返し2階へと続く。寝室、和室と床高が順に高くなっていく。

#### 外観構成について

北側外観は、宙に浮かぶ傾いた横長の立体といった様相である。その上に、一枚の板状に見えるよう隙間を開けて片流れの屋根をかけている。この傾きは、北側斜路の傾きをそのまま現わしているものであり、斜路を片持ちで持ち出すことであたかも宙に浮いているような印象を持たせている。また、張り出した立体を支える下部の壁面は、目立たないように暗い色で塗装し、宙に浮く立体を強調している。北側外観には、多数の木製建具による小窓がランダムに配置されている。

南側外観は、北側同様に、宙に浮かぶ立体という様相であるが、その立体から一部はみ出して外付けさ

れた大きな複数の木製建具が一つの層を作っている。

#### 外部仕上げについて

外部仕上げは、銅箔貼り（ポリ銅パーP工法 60 $\mu$  貼）であり、木製建具が用いられている。竣工時は、屋根も銅箔貼り（ポリ銅パーP工法 80 $\mu$  一文字葺）で輝いていた。現在は、銅が酸化して赤褐色になっている。

#### 内部仕上げについて

内壁は、主に生成り色の布貼りであり、一部壁や、襖に紺藍（こんあい）の布が貼られている。水回りは白いビニルクロス貼りである。床は、主に紅色のナイロンカーペットが使われている。他、茶ノ間・寢室・和室は畳敷である。南側と東側の木製建具は、雨戸・ガラス框戸・簀戸（すど）・障子戸の構成になっていて、すべて戸袋に引き込んで全開することができる。

#### 地域の気候風土への配慮について

海に近く夏は湿度の高い地域であり、南北通風に配慮されている。畳敷きの部屋には、地窓が設けられ、開けることで床面を伝う風の流れる感じることができる。南側の大きな開口部にはすべて雨戸が設けられていて、雪囲いの必要がない。また、雨戸を閉めても明り取りとなる小窓が各部屋に設けられている。天井、壁及び、洋室、台所の床に断熱材が計画されている。屋根に融雪水を流す配管が計画されていた。

## 4. 評価

ル・コルビジェからの影響を強く受けたインターナショナルスタイルの建築であると考えられる。渡邊洋治は、ル・コルビジェの孫弟子にあたり強く意識していた。田中邸設計の前後、チャンディーガルへ、ル・コルビジェの設計した建築を見に行っている。特に、Secretariat(合同庁舎) 1958の斜路には、外観に田中邸の北側外観に見られるような小窓群があり、折り返し斜路であることや、折り返す斜路の境が壁であり、その壁に穴が設けられている点、仕上げ色など、田中邸の斜路空間との類似点が多い。

一方で、建設地の地域性を強く意識していると考えられる点がある。渡邊洋治は、田中邸を設計する際に、潜水艦を創ると言ったとされ、周囲の水田の稲が育つと稲穂の水平面に沈み、稲が刈り取られると浮上する様子を例えたとされる。また、建設地は多雪地域であり、渡邊洋治が通った高田商工学校のある高田は、街全体が雪に沈むことを前提に、雁木（がんぎ）という屋根付き歩道を設けた町家が街並みを形成してきた。従って、冬になると雪に沈んでいく事を潜水艦に例えた可能性も高い。田中邸の設計図には、小窓の設置寸法が記されていない。施工者によると、図面に描いてある辺りで、外に何か見えそうな位置に付けるよう指示があったという。地面しか見えない羽目殺し窓があるが、「嗚呼、こんなに降ってきたか」と雪面を見る事ができる。雪に沈んだ雁木通りは、行きかう人々の脇で子供がスキーを楽しむ、立体的で親密な空間であった。田中邸の斜路空間周辺も、立体的で親密な空間であり、内部空間にも渡邊洋治を育んだ地域の環境が投影されているようにも読み取れる。

以上から、モダニズム建築の影響の下、世界共通のスタイルを模索しつつ、地域の特殊性を、直接的で安易な形態引用によらず付与しようとする試みが読み取れる。1980年代初頭に批判的地域主義が提唱されたが、この地域出身の建築家によって設計された批判的地域主義の視点からも再評価できる建築物ではないかと考えている。

# 渡邊洋治生誕100周年 記念講演会・原図展

上 越市出身の建築家・渡邊洋治の生誕100周年を記念し、ゆかりの  
上 スピーカーを招いて開催する講演会。貴重な原図も併せて展示します。  
世界的建築家ル・コルビュジエの孫弟子にあたり、「異端の建築家」と呼ば  
れた渡邊の功績と人物像に迫らんとする地元有志による催しです。



2023年6月10日(土) 15:30～19:00  
(15:00開場)

定員50名 | 入場無料 | 事前申込制 | 途中入退出可

直江津学びの交流館 1F イベントホール

◆プログラム ※プログラム及び予定時間は変更になる可能性がありますのでご了承ください

- 第1部 15:40(予定)～「渡邊洋治流デザイン作法(攻めとリカバリー)」  
佐藤武志 / 設計関連勤務、渡邊洋治事務局(甥)、一級建築士
- 第2部 17:00(予定)～「渡邊洋治の建築との出会い: 遠方からの研究」  
Josephine Burzone / 東京大学交換留学生 トリノ工科大学大学院博士課程在籍
- 第3部 17:40(予定)～「渡邊洋治と渡邊邦夫」  
鴨居貞明 / 建設会社在籍、一級建築士
- 第4部 18:40(予定)～「斜めの家」の空間とデザイン」  
中野一敏 / 建築家、一級建築士、ナナメの会主宰

直江津学びの交流館  
1F イベントホール  
新潟県上越市中央 1-3-18

アクセス

えちごトキめき鉄道直江津駅

北口より徒歩2分

- \* 妙高はなまライオン
- \* 日本海ひすいライン
- \* JR 東日本信越本線
- \* 北越急行はくほく線



馬主

直江津駅南口駐車場  
100台【無料】

(駅利用者と共用、会場まで徒歩7分)

※学びの交流館 1F 事務室にて駐車券をご提示ください。  
※施設前駐車場は台数が限られております。講演会は長時間に渡りますので、  
他の施設利用者にお譲りいただき、南口駐車場のご利用にご協力をお願いします。  
※近隣駐車場への無断駐車は、絶対におやめください。

申込方法

ナナメの会公式 LINE アカウント (@233btbqp)  
からお申し込みください(2次ページ参照)

※ナナメの会 e-mail からの申し込みも受付けております  
連絡先 e-mail : naname023@gmail.com



協賛

ナナメの会  
斜めの家再生プロジェクト

主催

後援

- 有限会社ハート一級建築士事務所
- 株式会社大雅建築設計事務所
- 地域住環境建築研究所
- 有限会社くびき野建築設計室
- アトリエレイン建築研究所
- 上越総合技術高技建築環境科 小林哲
- 梅川康輝 (記者)
- ナカノデザイン一級建築士事務所

上越市、新潟県建築士会上越支部

1923（大正12）年6月14日に、新潟県上越市（旧直江津市）に大工の棟梁の長男として生まれました。高田商工学校（現・県立上越総合技術高等学校）を卒業し、日本ステレンス直江津工場に就職。太平洋戦争中は船舶兵として徴兵され、陸軍予備士官学校卒業後、新潟・日本海船舶司令部に勤務します。

戦後は日本ステレンスに復職した後を上京し、1947（昭和22）年～1954（昭和29）年、久米建築事務所（現・久米設計）に勤務。1955（昭和30）年から3年間、早稲田大学吉阪研究室助手を務め、ル・コルビジエのもとから帰国したばかりの吉阪隆正に師事しました。1958（昭和33）年に独立して、渡辺建築事務所を開設しました。

代表作は善導寺（糸魚川市）、第3スカイビル（東京）、龍の砦（静岡）などがあり、1969（昭和44）年最高裁判所庁舎設計協議優秀賞など、建築設計競技で沢山の入賞を果たしています。海外でもその名を知られるようになった渡邊は、1979（昭和54）年にニューヨーク近代美術館の展覧会に出展。1983（昭和58）年には、アメリカ・モンタナ州立大学、ニュージャーランド・オークランド大学で招聘講演を行っています。1983（昭和58）年11月2日に急逝、享年60歳でした。2023（令和5）年は、生誕100周年にあたります。



善導寺（糸魚川）



第3スカイビル  
(現・GUNKAN 東新宿ビル)

## 「斜めの家」とは

「コルビュジエ派の木造住宅」というと、レーモンドの「夏の家」(1933) 前川喜男の「自邸」(1941)、堀沢 尚の「自邸」(1952)、吉村豊三の「尾井沢の山荘」(1962)の四作をもって時期ごとの代表作とし、それごとたれりとしてきたが、そこで終わらず、それに引き続くものとして、渡邊洋治の「斜めの家」を加えてもいいんじゃないかあるまいか。」  
出典：藤森照信の原・現代住宅再見 2（TOTO 出版）

1976年に建てられた渡邊洋治の妹夫婦のための住宅で、渡邊最後の実作です。生前はほとんど知られることがなかった隠れた名作が、上越市内に現存しています。増設のない2階建ての住宅は、1階と2階をつなぐスロープの傾きが建物外観の特徴になっており、「斜めの家」の名前の由来となったと考えられます。建築家・建築史家の藤森照信はコルビュジエ派の木造住宅の代表作のひとつとして評価しています。



## 泊まれる名建築を目指して～クラウドファンディング始動

2013年、空き家になっていた「斜めの家」を保存活用する

再生プロジェクトが、東京在住のオーナーと上越の有志によって始まりました。設計当時を知る関係者にお話を聞いたり、見学希望者と交流したりするなかで、更に「斜めの家」や渡邊洋治について知っていただきたまいたい、理解を深めていたきたまいたいという思いは強まりました。そして今後、宿泊体験ができる建築として「斜めの家」を活用していこうと構想しています。

築40年以上上たち傷みが目立ってきた「斜めの家」を、渡邊洋治が設計した原型を尊重して改修することで、大胆な外観だけでなく、使いやすく考えられた造作や、立体的なコミュニケーションを生む内部構造を、よりご理解いただけたらなるように期待しています。間もなく改修費用のためのクラウドファンディングがスタートします。多くのご支援いただけますと幸いです。

ナナメの会 Instagram



ナナメの会 Facebook

見学やイベント情報発信中！

Facebook ページ 渡邊洋治設計『斜めの家』再生プロジェクト への QR コードよりアクセスできます。



2013 年 12 月 4 日

12 月 3 日。2 階東の和室の照明が点いています。

新潟大学の岩佐明彦先生と、建築家の長谷川崇さんと中野一敏さんと霜鳥聡志さんが 4 人で立ったままお話し中です。

岩佐先生が渡邊洋治の建築作品集の随所を読み込んでらしたり、お詳しくだったので、聞いていて鼻の孔がやや膨らみました(\*^^\*)

活用案のひとつとして「斜めの家」で学生たちと合宿するプランも w

新大の学生さんたちにも是非、この建築 虎の穴へ尋ねて来て欲しいです



2014 年 4 月 20 日

「渡邊洋治設計『斜めの家』再生プロジェクト」アーカイブ活動として、4 月 18 日(金)に、舟見俊二さんをお招きしてお話しを伺いました。

お忙しい中、時間を割いて糸魚川市や長岡市より足をお運びくださいました皆さま、ありがとうございました。

ほんの一部ではありますが、当日のご報告を致します。

お話しは概ね 3 つのアプローチで伺いました。

- ・新潟県立高田工業学校木材工芸科時代のこと
- ・『斜めの家』にまつわる渡邊洋治との思い出について
- ・『インド・チャンディガール研修会』旅行(1975 年)のお話

舟見先生がご自身のお描きになったチャンディガール研修旅行のスケッチや旅行記を冊子にして参加者にプレゼントして下さいました。現地で見えたコルビュジェの建築と東京平河町の洋治さんの建築設計事務所の建築に共通していると感じた「肌で体感する建築空間」につ

いての考察を『斜めの家』の細い廊下にもつなげて論じられていたのは興味深かったです。また、直江津から高田へ汽車通学していた洋治さんのことや、当時の学生たちの気風(上下関係の厳しさと面倒見の良さ)のこと、工芸科の構内の雰囲気など、洋治さんとの直接の思い出というよりも、洋治さんが過ごしていた学生時代の空気感を教えて下さいました。廣田先生からも『斜めの家』を建築する前後の時期に洋治さんが母校(当時は「新潟県立高田工業高校」)に講演に来られると、その度に「自分自身の建築を!」と生徒たちに伝えていたことなども教えて戴きました。他にも『斜めの家』の持ち主で洋治さんの妹さんのシデさんとも交流のあった大橋秀三さんからも、洋治さんが亡くなる半年前に対面した経緯などについてお話し戴きました。

実際に生前の渡邊洋治とご面識のある方々の貴重なお話を伺うことが出来ました。

「アーカイヴ活動」は、今後も継続して行いますので、その都度またお報せ致します

\* 舟見先生の「チャンディガール研修旅行記」の洋治さんについて書かれた一節は、また改めて紹介したいと思います。



斜めの家 舟見俊二さんのお話  
© 廣田弘樹



2014年6月6日

予報では雨でしたが、幸い陽もさして風がよく通る一日でした。

新潟大学工学部建設学科の岩佐先生と6名もの学生さんたちが『斜めの家』を訪ねてくだ

さいました!!

岩佐先生が『渡邊洋治建築作品集』をもとに学生さんたちに事前学習の時間を設けてくださったとのこと。午後、岩佐先生がお仕事で出られている時間に、中野さんが今回の見学会の為に用意してくれた7つの資料と共にプチ・ゼミをしてくれました。主だった内容は、

- ・ 渡邊洋治の主な経歴について
- ・ この土地のランドスケープ及び時代背景をベースにした、『斜めの家』に落とし込まれた表現の考察
- ・ 公式には未発表作品であった『斜めの家』の本来的評価について

学生さんたちはメモをとったり感じたことを話してくれたり...それぞれに吸収して、「建築」を通して渡邊洋治との対話を楽しんで戴けたことと思います。

岩佐先生、学生のみなさん、またいらしてくださいね! ありがとうございます~!!





2014年6月29日

[斜めの家 アーカイヴ活動] 2014年6月27日(金)15時

『岩島大工さんにお話を伺う会』を催しました。

(話し手: 岩島房次さん 聞き手: 廣田敏郎さん)

『斜めの家』こと田中邸は1976年の築。この家の建築に携わったのが直江津の岩島大工さんです。今から38年前のことを、鮮明に記憶していらっしゃって本当に貴重なお話をたくさん伺うことが出来ました。

渡邊洋治の郷土愛、そして背負っていたものなど、岩島さんの視点から語られる洋治さんは、直江津の大工の家系に生まれた子であり、当時、現在の上越の建築・建設業界の礎がつけられた時代の空気感までも伝わってくるようでした。

こんなふうにして、さまざまな方が、さまざまな視点で渡邊洋治について語ってくださることで、今までは「異端の建築家」としての建築家像に偏りがちだった渡邊洋治像が、少しずつ厚みを増し、多面的な解釈が広がってゆくことは望ましいことなのではないか...と、あらためて感じた次第です。

内容については、後日、文字起こししてシェア出来たらと思っております。



斜めの家 岩島大工さんのお話  
100%再生



2014年10月6日

新潟日報住まい通信「すまっしゅ」9月号にて『斜めの家』が紹介されました。

その後、『すまっしゅ』をご覧になられたという方からもお問い合わせを頂戴いたしております。リバティデザインスタジオさま、丁寧な取材から、記事にさせていただくところまで、本当に有難うございます!!

『斜めの家』は、建物の保存のために、お問い合わせを戴き、見学日時をご予約いただくかたちで公開しております。

ご興味のおありの方は、メールにてお問い合わせください [nanamenoie@gmail.com](mailto:nanamenoie@gmail.com)

2014年(平成26年)9月11日(木曜日) (日刊) 新潟日報 (昭和59年7月30日第3種郵便物認可)

住まい通信 地域広告版 vol.111

Zoomup! 斜めの家

その個性豊かな作風から異端の建築家と呼ばれた上越市出身の渡邊洋治(1923-1983)。彼が妹夫妻のために設計した最後の作品『斜めの家』が今も故郷に残されている。その家の保存活動をしている方の案内で邸内を見て回ると、近代建築の正統な後継者という渡邊氏のもうひとつの顔が見えてきた。

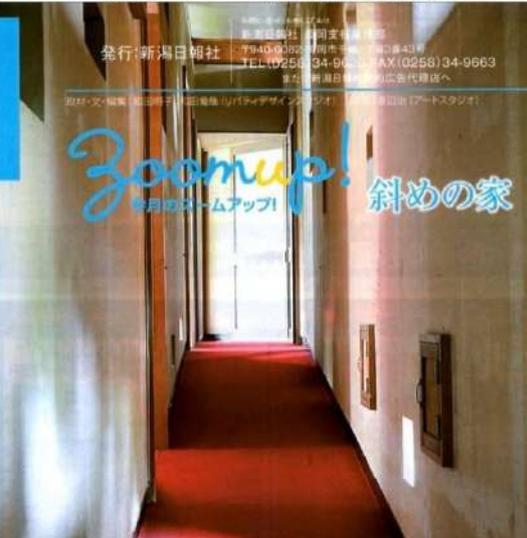
「斜めの家」が建てられたのは1976年。家は2階建てでありながら階段は一切なく廊下がすべて斜路(スロープ状)になっており、それによって家全体が傾いているように見える個性的な外観を持っている。この家を手掛けた渡邊洋治氏は近代建築の父と呼ばれるスイス人建築家ルドルフ・ヒューエの孫弟子に当たる人。代表作として東京都新宿区にある第三スカイビル(GUNKAN 東新宿ビル)などがあり、その才能は海外からも高く評価されている。

「斜めの家」は現在、渡邊氏の姪の安岡雅子さんがオーナーとして管理している。安岡さんがこの家を大切にしているのは、かつて両親が暮らしていた場所という思い入れのほかに、建築家・渡邊洋治の作品を後世に残したいという気持ちがあるから。

その安岡さんの了承を得て上越市内の有志が昨年秋の秋に「斜めの家」再生プロジェクトを立ち上げた。竣工から40年近くたつた傷みつつある家を修復しながら再生していく活動している。発起人の橋本桂子さんは「オーナーのご理解ご協力には本当に感謝しています。この家は訪れる度に何かしら新しい発見がある素晴らしい場所。新潟の風土を生かした住心地と感じています」と語る。そんな橋本さんの思いに賛同し一緒に活動している建築家の中野一敏さんも「ここを郷土文化に根ざした家だと解釈している。渡邊氏は、

「潜水艦を造るぞ」という言葉を残しています。斜めの家が、冬は雪中に滑り、春に浮上するイメージが浮かびます。斜路に沿って様々な高さに設けられた小窓と床高は、周囲の雪面の高さと呼応した光や景色をもたらすことを意図したのかもしれませんが、雪に埋もれることを前提にしたアイディアに、雁木との関連性を感じます。コル

「斜めの家」再生プロジェクト  
問い合わせメール [nanamenoie@gmail.com](mailto:nanamenoie@gmail.com)



2014年10月16日

『斜めの家』の修繕作業が始まりました。

建物の傷みは雨や風の影響を受ける部分からが多いので、まずは雨戸から始めます。

10月16日の雨戸の修繕作業「報告」

- ・この日は、1階和室の雨戸(2枚)のみ
- ・担当業者 有限会社 植木建築さん(上越市)
- ・部材は、基本的にオリジナルを修繕して使う
- ・木枠部分は、植木建築さんで塗装を剥がした後、塗装屋さんにて塗装。
- ・現在の塗装を剥離する方法について、最善を検討。
- ・植木建築さんから、随時作業連絡いただき、作業場で経過を見せていただきながら進める。

その他

- ・玄関ドア脇の柱部分の穴へ、シロアリ駆除剤を注入
- ・門扉のサブの鍵が使えるように、錠に潤滑剤注入
- ・雨樋の管の中をチェック

ゴミは特には詰まっていなかった由



**2014年10月24日**

新潟大学工学部の学生の T さんが、大学での研究の一環で、上越にヒアリングに来てくださいました。「住宅建築」の保存の問題をテーマに取り組んでおられるとのことでした。

著名な建築家の設計した住宅でさえ、価値を理解されぬままに人知れず解体されたりする昨今。でも、その中で社会的に保存していこうという動きもあります。そのような保存活動のひとつとして、「渡邊洋治設計『斜めの家』再生プロジェクト」に着目してくださったそうです。

建物の保存課題や活用についてのヒアリングでしたが、他の様々な、保存活動の途にある建築や、それぞれのケースについて、逆にこちらにとって参考になる内容もあり、T さんの研究を楽しみに感じました。



2015年6月6日

オーナー夫妻と『斜めの家』で、これからのことなどについてお話しをしました(^ ^)  
オリジナルを大事にして修繕を進めること、そろそろ市役所の文化振興課などにも渡邊洋治と『斜めの家』のことを伝えて、上越市に遺る建築として行政からも認識してもらうこと...etc。

『斜めの家』の持ち主はオーナーさんのご両親で、渡邊洋治の妹夫妻。つまり、オーナーさんにとっては渡邊洋治は叔父さんです。

『斜めの家』での、生前の洋治さんご両親との思い出話など、貴重なお話しも伺いました。  
「母が叔父に屋根の不具合をちょっと話したら、すぐにその場で上着もズボンも脱いで身軽になって、そこにある梯子を掛けて、屋根に上がったのよ。ここ(1階和室)にいて、屋根の上をあっちへこっちへとドドドドド～ドタドタドタ～ッ、って走ってる叔父の足音を覚えているわよ(笑)」洋治さん、腰が軽い!! 屋根から降りて来た洋治さんは「塗りが足りない!!」と言ってペンキを塗りだしたとか...!! 他にも、「襖のここは仏壇が入っていたのよ」とか、「夏はね、廊下のここの窓を開けておくといい風が入るのよ」などなど、沢山のお話しを伺えました。お聞きしたいこともまだまだ沢山。楽しかったです～。感謝です



2015年9月7日

暑い暑い8月のある日。

木内俊克さんと戸田穰さんが『斜めの家』の内覧に訪れてくださいました。

お二方とも、それぞれの大学で教員をされているお立場でいらっしゃるとのこと。「学生たちも連れてきたいなぁ」という嬉しい言葉も頂戴しました。

「ぬっ」と壁から出た片腕は、戸田さんです。携帯のカメラで1階の居間を撮影してらしたのですが、ドキッとして一瞬、体感気温が下がりました

木内さんが『斜めの家』の中を抜ける風と共に流れるように建物の中を歩いては光や空間を体ごと楽しまれている様子は拝見していてとても愉快で嬉しかったです。

ミンミン蝉の声のボリュームと密度。お喋りしている間に、陽は傾いて、やがて蝸の声に....

いつまでもお話しが尽きず、夏の日々の長さに感謝しました。

冬の『斜めの家』も、ぜひ! お待ちしています。



2016年7月12日

定期メンテ&チェックの日。

部戸(しとみど=雨戸)の鍵がかかりにくくなっていたり、引き出すための把手金具の動きを良くするために、一度外して取り付け直したりしました。外して見ると分かる部品の仕掛けや、金具を付けるために削りこんだノミの削り跡などにドキドキしました  
中野さん、ありがとうございました!!

一箇所、修繕を要する箇所も見つかりました。

屋根の軒の裏側のベニヤ板が、先日の強風のせいか、表面だけペロンと剥がれてしまっており、すぐに『斜めの家』のオーナーに報告をしました。



**2016年7月24日**

中国から学生さんたちが見学に来てくださいました。

香港大学、香港バプティスト大学、香港演芸学院、香港理工大学にて、建築や美術を学んでいらっしゃる方々で、今回は「瀬戸内国際芸術祭 2016」をメインにして来日されたとのこと。(「瀬戸内国際芸術祭 2016」 <http://setouchi artfest.jp/about/>)

日本に滞在中の見学プランにおいて、住宅建築の見学先は2つ...京都にある藤井厚二設計の自邸『聴竹居』と共に、渡邊洋治設計の『斜めの家』をチョイスして下さったそうです。光栄に感じます。(「聴竹居」 <http://www.chochikukyo.com>)

アレックス先生が急遽来られなくなってしまったことがとても残念でしたが、ガイドのJTB

香港支局の張さんが建築に造形が深く、タイトな時間の中、丁寧に通訳をしてくださり、また学生の皆さまも暑い中、熱心に建物を観、説明に耳を傾けてくださって、とても感激しました。

洋治さんが、「若い人たちに良い建築を見せなくては!!」との一心で、旅程策定からガイドまでこなしというインドのチャンディーガル(ル・コルビュジェが都市計画した)を含む建築見学ツアーのことが彷彿とされました。

若者に良い建築を見せたくて海を渡って連れて行った洋治さん…。その洋治さんの建築を見せようと、現代に、こうして、海の向こうから若者たちを連れて来てくださった人がいること…。洋治さんにとっては、すごく嬉しいんじゃないかな…。

チャンディーガルでの逸話や、『斜めの家』が建つ上越市の気候風土など、諸々お話しさせて戴きました。

張さんからは、渡邊洋治がル・コルビュジェの孫弟子であることを踏まえて、「ル・コルビュジェが設計した『国立西洋美術館』も世界遺産登録がされて、これからますます渡邊洋治に関心と注目が集まるのではないですか? そうなるとよいですね。」とおっしゃっていただきました。とても感慨深いガイドの一日となりました。張さん、皆さま、ありがとうございました。ご活躍を心から祈念いたしております。

どうかまたいらしてくださいね お待ちしています。



2018年9月12日

東京から7名の皆さんがお越しくださいました。建築家の春日部さんご夫妻と、建築関係の出版・編集をされている高木さん、ご一緒にお仕事をしてらっしゃる皆さんです。

いつも、見学を始める前に「最初に”解説なし”でご覧になられますか? それとも”解説付き”

でご覧になれますか?」とお訊きすることにしています。

今回は「解説なし」「解説付き」「建築図面・作品集・資料等を見る」という順序でご案内させていただきました。

初見の段階から、皆さんが「建築」という言語で、『斜めの家』や渡邊洋治と対話をしているようだったのが、とても興味深かったです!!

中でも、「(『斜めの家』は) 船っぽい」という印象と、「インドのチャンディガールの行政庁舎みたい」という鋭い感想に驚きました。

実は『斜めの家』は、その設計の前段の時期に訪れたチャンディガールで、多くの着想を得たらしい形跡があるのです!

「船」のアナロジーについては、ボートハウスの間取り図のメモが残されていたりします。また、『斜めの家』を建てるに際して渡邊洋治が「おい、俺は潜水艦を作るぞ」と地元の後輩で美術家の舟見俣二さんに宣したという逸話もあります。

他にも、外光が室内に色光として映り込む有り様を「船乗りの発想だね...船室に波頭の光が反射して映るようだ」との指摘も。...なるほど、洋治さんは青年の頃、陸軍船舶隊勤務の経験があったこともあり、小さな船窓から船室内に射し込む光の様子を目に映していたかもしれせん。

「行政庁舎」に関しては、訪れたことのある方なら、特に「行政庁舎」の通路の部分と『斜めの家』の斜路の景色とが重なって見えてくることでしょう! 言葉などなくても伝わるんですね~!

..

チャンディガール・ツアーを洋治さんがまとめた冊子(資料用レプリカ)を和室の六畳間にめいっぱい広げて眺めたり、『斜めの家』の設計の第1案~第2案~最終型までの複数の図面を見比べつつ、その展開理由を探ったり、ワイワイ、ワクワク、この上なく楽しい時間を過ごさせていただきました。

気がつけば、4時間ちかくが過ぎておりました(^ ^;)

..

空には、たくさんのアキアカネ(赤とんぼ)が山から降りてきていました。

季節は秋へ。冬になる前に、ご覧になりたい方は、ご連絡ください。(ご要望をいただければ、冬でもご案内いたします)

春日部さん、高木さん、皆さま。興味深い視点をたくさん教えてくださりまして本当にありがとうございました。

ぜひまたいらしてください。お待ちしております。



2018年12月5日

12月。冬本番を前に、外壁の修繕作業をしていただきました。『斜めの家』の外壁は、そのほとんどが銅箔で覆われています。設計図面には、銅箔の厚さは「60 ミクロン」とあります。0.06 ミリ...う、う、薄いのですっ

剥がれて落ちてしまった大屋根を支える梁の木口カバーや、たくさんの大小の裂けや綻びを、ひとつひとつ、半日かけて、脚立に上がって修繕していただきました。

カッパーテープを貼った『斜めの家』の所々がキラキラと光っていました。...その姿は建築というよりも、工芸品のようでした。「完成当初は、建物全体が、明るい銅色に輝いていたそうですよ。」と職人さんにお話すると、

「それは、照り返しがきつかったらうな。夏は熱くて暑いし、銅葺きってのは反射光で目をやられるんだ」と、教えてくださいました。なるほど～～

『斜めの家』の外装を手掛けた職人さんたちのご苦労も知ることが出来ました。

..

お庭は冬囲いもしていただいております。内覧を希望される方は、お気軽にお問い合わせ下さい。作業して下さった職人のみなさん、ありがとうございました😊



2018年11月24日

斜路に突き出る手！

怪奇な演出を見いだしてくれたのは、長岡造形大学で建築を学ぶ女子学生の皆さんです(笑)

11月24日(土) 長岡造形大学、建築・環境デザイン学科の小川峰夫教授と3年生、4年生の学生の皆さんが見学に来てくださいました。

それにしても、女子の比率が多い。美大系の長岡造形大学では、女：男=7：3だそうです！最近は工学部の建築学科でも女子の比率が多いとの事。

軍隊式スパルタ指導の逸話が残る渡邊洋治さんに行ってみれば、隔世の感があるのではないのでしょうか。

小川先生からは、渡邊洋治企画のヨーロッパ、エジプトツアーに参加された時の貴重なお話をうかがうことができました。

- ・バス移動の強行スケジュールで、疲れて居眠りしている学生に、「一分にいくらかかっていると思っているんだ！！」と怒る。
- ・一分でも遅刻する学生に、「30人いるから、お前が一分おくれると30分遅れるんだ！！」と怒る。
- ・建築を見学後に、採点する。「B+！」等々。
- ・見学も軍隊式。ロンシャンの教会を見学する際も、整列！〇〇班、突撃！！という感じ。
- ・40代の旅行会社添乗員を泣かす。

- ・通訳をしていた現地ガイドを怒って、片田舎でバスから降ろす。それ以降、言葉が通じなくて不便だった。
  - ・旅行中に、スケッチをしていた。
  - ・旅行後に、旅行記録スケッチなどを記した巻物をいただいた。
- 意外と面倒見の良い、いい人なんですよ。という事でした。  
小川先生、学生の皆さん、ありがとうございました。



### 2019年12月26日

あいにくの雨でしたが、富山から、根塚建築設計事務所の根塚陽己さんが見学に来てくださいました。新潟工科大学の大学院生お二人も、時間を合わせて来て下さり、合同見学会となりました。学生からは、「スロープの勾配が思っていたよりきついのですね。」という感想をいただき、図面を確認すると1/8勾配の記載があります。確かに今の、バリアフリー法の屋内スロープ勾配1/12に比べるとかなりきつい印象かもしれません。

根塚さんからは、玄関からスロープを登るにつれて、右側の壁の反対側が屋外スペースから屋内スペースにかわっていく面白さを指摘していただきました。

合わせて考えると、斜めの家のスロープは、バリアフリー的な機能面から導き出されたと解釈するよりも、ル・コルビジェの「建築的プロムナード」のコンセプトから影響を受けていると考えた方が納得できるのかもしれない。(サヴォア邸のスロープ勾配は、1/6程度ありそう。)やはり、斜めの家見学の際は、スロープを登り降りするときに味わえる左右の空間の関係性の変化を楽しんでいただけたらと思います。屋外との関係、室内の各部屋との関

係、とても面白いです。さらに、天気の良いと、スロープは光の劇場となります。庭木の雪吊りも終わり冬を迎えようとしています。



**2020年2月29日**

このプロジェクトを立ち上げて、地元で中心となって推進されてきた橋本桂子さんが、26日に逝去されました。このプロジェクトを通して、橋本さんと交流のあった皆様にお知らせいたします。

ここでやりたいねと話していたことがたくさんあったので、喪失感でいっぱいです。しかし、このプロジェクトは彼女の思いを引継ぎ前に進みたいと思います。今後も、皆様どうぞお力添えくださいますようお願いいたします。

設定の関係なのか、このプロジェクトに頂いたメッセージが私の方に届いていない可能性があります。見学のお申し込みなど、下記メールアドレスにもいただけますと幸いです。

info (at) d nakano.com      お手数ですが、(at)を@に変換してご使用ください。

中野一敏

**2021年1月12日**

35年ぶりの大雪に見舞われました。国道等はなんとか車が通れる状況になって、たどり着きました。夕方から雨が降る予報のため、急遽張り出した軒先だけ雪降ろしを行いました。



2021年4月1日

快晴の中、お掃除&見学会終了致しました！上越総合技術高校設計部の皆さん、教職員の皆さん、見学会に参加してくださった皆さん、ご参加ありがとうございました。



2022年12月10日

「斜めの家」に、イタリア人の女性が見学に来てくれました。彼女は今年、東京大学に交換留学しているトリノ工科大学大学院博士課程後期3年生です。天気にも恵まれて楽しい時間をすごせました。

お会いする前に、彼女が東京とメタボリズムの遺産、そして1970年代の二つの建物の変遷というタイトルの修士論文を書いた事を知りました。第三スカイビル(1970)と中銀カプセルタワー(1972)の変遷を通じた考察を行ったそうです。

そして、昨年日本で開催された第16回国際Docomomo会議で論文発表をしたとのことでした。

博士課程で日本住宅公団が建てた公団住宅の再生・保存事業について研究をしているそうです。しかし、渡邊洋治のファンであるため、吉阪隆正と(間接的に)ル・コルビュジェが、彼に与えた影響の研究を続けたいとの事でした。

彼女は、渡邊洋治の建築は、上越の寒冷な気候に影響を受けているという指摘をしてくれました。さらに、来年の渡邊洋治の生誕 100 周年を知っていました。そんなわけで、彼女とお会いするのが楽しみでした。

渡邊洋治の建築は、もっと高く評価されるべきだと熱く語ってくれました。

An Italian woman came to visit "THE DIAGONAL HOUSE ". She is an exchange student at the University of Tokyo this year and is a third year doctoral student at the Polytechnic University of Turin. We were blessed with good weather and had a great time.

Before we meet, I was informed that she had written a master's thesis titled Tokyo and the Metabolism heritage. History and transformation of two buildings of the Seventies. She examined the vicissitudes of SKY BUILDING ,No3(1970) and The Nakagin Capsule Tower Building (1972).

And she gave a paper presentation at the 16th International Docomomo Conference held in Japan last year.

She is a doctoral student researching the revitalization and preservation of public housing buildings built by the Japan Housing Corporation. However, because she is an enthusiast of the architect Yoji Watanabe, she wanted to continue her research on the influence of Takamasa Yoshizaka and (indirectly) Le Corbusier on him.

She pointed out that Yoji Watanabe's architecture was influenced by the cold climate of Joetsu. In addition, she knew about the 100th anniversary of Yoji Watanabe's birth next year. So, I was looking forward to meeting her.

She enthusiastically said that Yoji Watanabe's architecture should be appreciated more.





産税や、メンテナンス費用を負担されて、見たい方に無料で「斜めの家」を公開してきました。私たちもその想いに賛同して、ボランティアで無料の見学会を開いてきました。しかし、保存には費用がかかるし、ボランティアの見学会もたくさん開くのは難しい。住宅地に建つ一戸建て住宅であるために、人をたくさん呼ぶ見学会を行うのも難しい問題があります。持続可能な保存のためには、どこかでお金を得ながら、公開する仕組みを作っていく必要がありました。

お金を得る仕組みについては、いろいろと考えてきましたが、なかなか妙案はない状況でしたが、同じような問題を抱えている住宅が、「泊まって学べる名住宅」という新しい取り組みを始めている事を知りました。まだまだ事例は少なく、皆様なじみがないとおもいますが、TOTO 通信 2023 年 新春号「名住宅に泊まって学ぶ」には、その事例が紹介されています。今回、渡邊洋治生誕 100 周年の節目の年に、「斜めの家」を「泊まって学べる名住宅」として使えるように修繕し、宿泊者を募るクラウドファンディングに挑戦することにいたしました。本当に新しいことは、認知されるのにとっても時間がかかるのが問題なのですが、渡邊洋治生誕 100 周年の好機を逃さずに、新しい挑戦をはじめたいと思います！

【クラウドファンディングのスタートは、渡邊洋治の誕生日である 6 月 14 日です。】

是非、クラウドファンディングページをご覧ください。

見ていただくだけでも価値のある資料性の高いページになっています。

「斜めの家」を、「泊まって学べる名住宅」とすることの可能性をご理解いただけると幸いです。上越市が取り組む通年観光にも役立つ、ハイブローな建築文化がここに眠っています。情報拡散をぜひ宜しくお願い申し上げます m( )m

クラウドファンディングページは、6 月 14 日まで、応援メッセージの追加などもう少し作りこんでまいります。

2023 年 6 月 10 日

おかげさまで渡邊洋治生誕 100 周年記念講演会を盛大に開催中です ✨



2023年12月19日

新建築家技術者集団 (<https://nu-ae.com/>) の、「建築とまちづくり 536」 私のまちの隠れた名建築のコーナーに寄稿させていただきました。

(本文)

新潟県上越市に、異端の建築家、渡邊洋治(1923-1983)の最後の実作、「斜めの家」(1976年竣工)が残っています。上越は洋治の故郷であり、「斜めの家」は洋治の故郷への向き合い方を伝える貴重な建築です。

洋治は地元の商工学校を卒業後、分離派建築会の影響を受けた建築家西田勇の薫陶を受けます。太平洋戦争に従軍後、東京の久米建築事務所に勤務し、故郷にも「航空母艦」と呼ばれた旧新潟労災病院を設計します。その後、早稲田大学吉阪研究室の助手を務め、コルビュジェのもとから帰国した吉阪隆正に師事し、以降の活躍は多くの方がご存じだと思います。

「斜めの家」は、「軍艦マンション」や「龍の砦」の陰に隠れた存在でしたが、2000年に藤森照信氏に再評価され、「藤森照信の原・現代住宅再見2」の表紙になっています。

洋治は「斜めの家」を設計する当時、「潜水艦」を造ると語ったそうです。軍事色のある洋治らしい着想なのですが、なぜ沈むのでしょうか。2つの説があります。

1つは、周囲の水田の稲が育つと、稲穂の海に沈み、稲刈り後に浮上すると洋治が語った説。当時すでに周辺の宅地化が進み、実際に見えた風景なのか、洋治の心象風景なのかは分かりませんが、故郷の風土と融合する現代建築がイメージできます。

もう1つは、洋治は故郷が多雪地帯であることを意識していたため、雪に沈む「斜めの家」を潜水艦に例えた説。上越市は、「雁木通り」という雪に沈むことを前提にした町並みが残っており、洋治が通った商工学校がある高田は、現存する雁木の総延長が日本一と言われます。

「斜めの家」は、洋治を育んだ故郷の風土と共に、意識していたコルビュジェの影響を強く感じる建築でもあり、来年以降、宿泊して多くの方に体験していただけるように準備を進めています。

